

平成30年度 事前評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	ため池防災事業（三念寺池地区）	
担当部署	環境農林水産部 泉州農と緑の総合事務所 耕地課 （連絡先 072-439-3601）	
事業箇所	泉佐野市上瓦屋	
事業目的	三念寺池は、泉佐野市上瓦屋地区の農地7.2haを灌漑する重要な水源施設であり、築造以来当該地区の生活基盤をなす農業経営上、欠くことのできない施設で、泉佐野市土地改良区や地域住民により適切な維持管理が行われてきたものの、堤体を構成する土質が軟弱であるため堤体法面が不安定な状態であり、法尻部に漏水も見られるため、下流側の農地や民家・公共施設に多大な影響を及ぼす恐れがある。取水施設は斜樋型式が整備されているものの、老朽化が進み操作性が悪く、漏水も確認されている。よって、本ため池の堤体及び取水施設の改修を行うことで、破堤による地区被害を未然に防止し、農業灌漑ため池としての従来の機能回復を行い、農業経営の安定を図るものである。	
事業内容	堤体工 L=329.0m 取水施設工 3カ所 仮設工 1式	
事業費	全体事業費：2.8億円 （内訳）工事費 2.6億円 測量調査費 0.2億円	
	【事業費の積算根拠】 既存資料及び現地での調査・測量結果を基に堤体等の標準断面を定め、工事数量を算定したのち、積上げにより事業費を算出。	【工事費の内訳】 堤体工 約2.0億円 取水施設工 約0.2億円 仮設工 約0.4億円
事業費の変動要因	【他事業者との協議状況】 該当なし 【今後の事業費変動要因の予測】 耐震性能診断により、対策工法を講じる必要が生じた場合、事業費増の可能性がある。近傍からの良質な刃金土の入手が困難となった場合、代替工法を講じる必要が生じた場合、事業費が変動する可能性がある。	
維持管理費	なし（泉佐野市土地改良区へ引き渡すため）	
関連事業	なし	

2 事業の必要性等に関する視点

上位計画等における位置付け	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府ため池防災・減災アクションプラン（H27.11策定） 大阪府地域防災計画（H26.3策定） 新たなおおさか農政アクションプラン（H29.8策定） 																																						
優先度	三念寺池は、水防値B級に指定され、下流影響度が大きく、老朽度が高いため池として防災・減災対策を重点的に推進するため池に選定されており、早急に対策を行う必要がある。																																						
事業を巡る社会経済情勢等	<p>【泉佐野市の農業と基盤整備】</p> <p>○泉佐野市は大阪府南部に位置し、山から海にかけて階段状の地形を有する南北方向に長い形状となっている。北部には市街地が広がり、南部丘陵地では軟弱野菜、花卉を中心に都市近郊農業を展開している。点在する集落、田畑、ため池、樹林地などが季節感のあるのどかで開放的な空間を提供している上、農業の維持によって秩序ある自然との共存関係を保っている。</p> <p>農業の推移（農業センサスより）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>耕地面積</th> <th>農家数</th> <th>稲作</th> <th>野菜類</th> <th>耕作放棄地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2010年</td> <td>497ha</td> <td>1,080戸</td> <td>206ha</td> <td>198ha</td> <td>24ha</td> </tr> <tr> <td>2015年</td> <td>488ha</td> <td>1,029戸</td> <td>172ha</td> <td>対象データなし</td> <td>32ha</td> </tr> <tr> <td>2010年比</td> <td>△9ha</td> <td>△51戸</td> <td>△34ha</td> <td>—</td> <td>8ha</td> </tr> </tbody> </table> <p>○現在の農業基盤整備の状況は、本ため池のほか、中山池の改修が進められており、また水防ため池A級及びB級に指定されているため池を中心に耐震性能診断を進めている。</p> <p>【ため池の現況】</p> <p>○諸元</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>堤高</th> <th>堤長</th> <th>貯水量</th> <th>満水面積</th> <th>受益面積</th> <th>受益戸数</th> <th>被災受益</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5.0m</td> <td>329m</td> <td>50.0千m³</td> <td>2.42ha</td> <td>7.2ha</td> <td>32戸</td> <td>7.5ha</td> </tr> </tbody> </table> <p>○受益地では主に水稻、なすを作付けしている。</p> <p>○堤体の盛土部は軟弱な土質で構成されているため、安定性を確保する対策が必要である。</p> <p>○堤体法尻部に漏水があるため、その対策が必要である。</p> <p>○取水施設については、老朽化が進み操作性が悪く、漏水も確認されているため用水不足の一因となっている。</p>		耕地面積	農家数	稲作	野菜類	耕作放棄地	2010年	497ha	1,080戸	206ha	198ha	24ha	2015年	488ha	1,029戸	172ha	対象データなし	32ha	2010年比	△9ha	△51戸	△34ha	—	8ha	堤高	堤長	貯水量	満水面積	受益面積	受益戸数	被災受益	5.0m	329m	50.0千m ³	2.42ha	7.2ha	32戸	7.5ha
	耕地面積	農家数	稲作	野菜類	耕作放棄地																																		
2010年	497ha	1,080戸	206ha	198ha	24ha																																		
2015年	488ha	1,029戸	172ha	対象データなし	32ha																																		
2010年比	△9ha	△51戸	△34ha	—	8ha																																		
堤高	堤長	貯水量	満水面積	受益面積	受益戸数	被災受益																																	
5.0m	329m	50.0千m ³	2.42ha	7.2ha	32戸	7.5ha																																	
地元の協力体制等	本事業の実施にあたっては、管理者である泉佐野市土地改良区をはじめ、泉佐野市等の全面的な協力を得ることができる見込みである。																																						

<p>事業の投資効果 ＜費用便益分析＞ または ＜代替指標＞</p>	<p>【費用便益分析】</p> <p>○総費用総便益比： 8.07 ・総便益：1,839,949千円 (①+②+③+④)</p> <p>①維持管理費削減効果 △7,580千円 ②災害防止効果(農業関係資産) 123,657千円 ③災害防止効果(一般資産) 1,698,084千円 ④災害防止効果(公共資産) 25,788千円</p> <p>・総費用：227,906千円(①+②) ①当該事業費 227,906千円 ②その他費用 0千円</p> <p>【ため池決壊時の主な影響】</p> <p>(1)全想定被害面積 7.5ha (2)農作物被害 かんばつ 2.6ha 浸水 2.3ha 流出埋没 2.6ha (3)農業施設被害 水路 260m 農道 0m (4)農業用納屋 19戸 (5)被害戸数(人家) 153戸 (6)被害戸数(事業所) 35箇所 (7)被害想定額 2,104,386千円</p>	<p>【算定根拠】</p> <p>○土地改良の効果算定マニュアルによる</p> <p>・総便益 災害防止効果や維持管理に係る管理者の負担節減効果など、評価期間における効果を現在価値化し算出</p> <p>・総費用 当該事業による費用に資産価額及び評価期間(当該事業の工事期間+40年)における再整備費を加え、評価期間終了時点の資産価額を減じた事業費を現在価値化し算出</p> <p>・被害想定額 当該施設が決壊(崩壊)した場合の被害想定をもとに算出</p> <p>・受益者 受益農家、地域住民</p>
	<p>【効果項目】</p> <p>○安全・安心</p> <p>・現状では、老朽化により堤体の浸食および漏水が著しく、危険な状態であるが、改修によりため池の決壊を防止し、農地・農業施設及び地域住民の生命・財産を浸水被害から守ることができる。</p> <p>・ため池の改修により農業用水が安定的に確保され、安心した農業生産が可能となる。</p> <p>○多面的機能、快適性</p> <p>・降雨時には、ため池の有する洪水調整機能により地域の水害防止に寄与する。</p> <p>・ため池の水を近隣地の火災発生時の防火用水として活用することにより、下流の地域住民の生命と財産を守ることができる。</p> <p>・営農活動が継続でき、水田や畑などの農空間が保全され、地域住民の安らぎと潤いを与えることができる。</p> <p>○地震に対する効果</p> <p>・耐震性能を備えることにより、地震直後に堤体の崩落・沈下等によるため池の決壊を防ぎ、下流域の農地・農業施設及び地域住民の人命・財産を浸水被害から守ることができる。</p>	
<p>事業効果の定性的分析 (安心・安全、活力、快適性等の有効性)</p>		

3 事業の進捗の見込みの視点

<p>事業段階ごとの進捗予定と効果</p>	<p>H29 農村地域防災事業(調査計画事業)として実施 基本計画の策定</p> <p>H31 農村地域防災事業(ため池整備事業)として着工予定</p>					
		H31	H32	H33	H34	H35
	進捗	耐震性能診断 実施設計	堤体工 取水施設工 仮設工	堤体工 取水施設工	堤体工 取水施設工	堤体工 仮設工
効果	耐震性能の把握	取水施設の維持 管理の省力化及 び堤体の安全性 向上	取水施設の維 持管理の省力 化及び堤体の 安定性向上	堤体の安全性向 上	堤体の安全性 向上	
完成予定年度	平成35年度					

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

<p>代替手法との比較検討</p>	<p>○他のため池の利用等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受益地農地周辺には、ため池が存在するものの、他の水利組合が所有するもので、新たに権利を取得することは困難である。 ・従って、本ため池の堤体改修以外に代替案はない。
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 特記事項

<p>自然環境等への影響とその対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低排出ガス機械を使用するなど、環境に配慮した施工を行う。 ・工事において発生した残土を可能な限り事業地区内で再利用する。
<p>その他特記事項</p>	<p>特になし</p>

6 評価結果

<p>評価結果</p>	<p>○事業実施</p> <p>＜判断の理由＞ ため池整備事業(三念寺池地区)については、事業実施により、豪雨等により三念寺池が決壊した場合の人家や農作物等の被害の防止を図ることに加え、地域の農業経営上重要な水源の安定的な確保や農空間の保全を図ることができることから「事業実施は妥当」と判断する。</p>
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------